

Henceforth tasks for both nations to promote the development direction of social welfare education

Iwao Oshima, PhD (President & Professor, Japan College of Social Work/
Vice President, Japanese Association of Schools of Social Work)

1. What are social needs for educating social workers, when we revise the curricula for social workers in both countries?

- ・両国で SWr の養成カリキュラム改革・見直しが進む背景に、SW 人材に対する社会のニーズは何か、それに対し SW 人材は何ができるのか、が厳しく問われている状況がある。
- ・李先生のご発言のように「今後の労働市場での役割ビジョンを考えなければならず」、社会的ニーズに対して問題解決に貢献できる人材育成という観点から改めてカリキュラム見直しが必要。
- ・日本では、厚生労働省「誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現」（「新福祉ビジョン」）を発表。その中では、新しい地域包括支援体制を担う人材としてコーディネート力のある人材の必要性を強調。地域社会の分析力、ニーズに対して必要な社会資源を創造・開発、地域を変えるなどマクロ実践ソーシャルワークの力量、実践研究力が強く求められる
- ・このような力量の高い福祉人材は、大学等の SWr 養成教育のみで育成することは困難。

2. Curricula revision from the perspectives of cultivating competent SWrs over their lifetimes who can meet the social needs

- ・学部における SWr 養成教育と大学院教育が連携して、SWr の生涯にわたるキャリア形成教育の体制を整備する必要がある。
- ・実習教育を含めて学部教育でできること、すべきことは何か。特にマクロ実践ソーシャルワーク、プログラム開発と評価、実践研究方法論の教育を学部教育でどのように行うか。
- ・学部教育と連携して、大学院教育でできること、すべきことは何か。日韓の比較において、韓国における福祉系大学院教育の活況はたいへん関心のあるところである。特に日本では、認定社会福祉士の育成に果たす大学院教育の取り組みに十分な成果が出ていないが、韓国での経験をお聞かせ頂きたい。

3. Field practicum education for envisioned "qualification of advanced SWr" that can be compatible with global or regional standards

- ・両国とも、社会のニーズに合致し、国際的基準に照らして適合的な上級 SWr の制度構築が求められており、福祉系大学院の役割が期待される。
- ・日本には認定社会福祉士制度が 2011 年に発足。韓国でも李先生のご報告のように「専門社会福祉士」が議論される。
- ・実習教育の時間数に関して、アジア諸国や欧米諸国との互換性、さらには保健医療など他専門職との格差を考慮して、上級 SWr 資格における実習時間の充実が有力な対応方策では。その制度設計・見直しが必要と考える。